

博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏名	細田 耕平
学位	博士(教育学)
学位記番号	新大院博(教)第25号
学位授与の日付	令和2年3月23日
学位授与の要件	学位規則第3条第3項該当
博士論文名	小学校教育における食育カリキュラムに関する研究—新学習指導要領下での教科横断的な指導に向けた提案—
論文審査委員	主査 准教授 山口 智子 副査 教授 笠井 直美 副査 教授 高木 幸子

博士論文の要旨

近年、食育の重要性が認識されるようになったのは、児童・生徒の体力の向上を図り、将来にわたって健康な生活が送れるようにするために、家庭だけでなく、学校をはじめ地域社会においても食に関する指導の充実が必要であるとの考えからである。しかし、学校における食育に関するこれまでの研究報告では、教科名や学習指導要領の内容項目との関連などを意識した食育に関する研究はほとんどみられない。そこで本研究では、学校教育を通して児童・生徒の健康で豊かな食生活の基礎を築き、生涯にわたる健康管理能力を育むことをめざして、2020年度から全面実施となる新学習指導要領の下で有用な、学習指導要領との対応を明確にした小学校における教科横断的な食育カリキュラムの提案を目的とした。

本論文は研究の背景、及び目的と意義を記した序章を含めて、全7章で構成されている。

第1章：食育関連指導案が準拠する小学校学習指導要領の内容項目に関する調査

学習指導要領と教科等における食育関連事項との関連を明らかにするために、全国の公的機関からインターネット上に公開されている学習指導案・指導事例381件を収集したデータベースを作成し、実施学年や教科、現行学習指導要領の内容項目のどの部分に準拠して授業が計画されているかを調査している。現行の小学校学習指導要領では学級活動、家庭科、体育科、総合的な学習の時間において、内容項目に食・健康に関連する事項が明記されており、データベースの学習指導案・指導事例ではそれに準拠して授業が計画されていること、その一方で、生活科、社会科、道徳、理科では食育に関する事項は明記されていないものの、

各教科内容を指導する際の教材やテーマとして食に関連した事項を扱うことができ、食育を位置づけた指導が行われていることを明らかにした。

## 第2章：小学校体育科における保健領域の指導内容と食に関する指導の目標との関連

第1章で言及したデータベースを用いて、体育科（保健領域）の学習指導案・指導事例について、現行及び新学習指導要領への準拠状況や評価規準、さらに『食に関する指導の手引』（文部科学省）に示される食に関する指導の目標の設定状況を分析した結果、第3学年から「心身の健康」を目標とした食に関する指導を行うことで、体育科と家庭科の学習内容をつなげた教科横断的な指導が可能であることを明らかにした。さらに、第6学年の生活習慣病に関する体育科（保健領域）の授業では、健康にかかわる事象から自己の課題を見つけ、その解決に向けて考え、表現するという新学習指導要領の意図する言語活動の充実に即した活動が取り入れられており、今後さらなる食育の推進に向けた指導が期待できることを明らかにした。

## 第3章：小学校家庭科における食生活分野の指導内容と食に関する指導の目標との関連

家庭科（食生活分野）の学習指導案・指導事例について、第2章と同様の分析を行った結果、現行学習指導要領では「B 日常の食事と調理の基礎」のいずれかの内容項目に準拠した事例が90%、その中でも「B (2) 栄養を考えた食事」が最も多く、全体の55%を占めていることを明らかにした。食に関する指導の目標への該当状況は、「心身の健康」と「食事の重要性」が多く、「社会性」と「感謝の心」の事例数は少なかったが、家庭科では食に関する指導の6つの目標を位置づけた様々な展開が可能であることを確認し、同じ題材名でも多角的な視点から指導が行えることを明らかにした。今後、学習指導案にこれまでほとんど記載されてこなかった食に関する指導の目標を明確に位置づけた学習指導案を作成することが、食育をより強く意識した指導に繋がると考察した。

## 第4章：学級活動（給食の時間を含む）における食に関する指導の検討

学級活動の学習指導案・指導事例について、設定題材と指導展開、評価規準等の記載内容を分析し、学級活動で中心のかつ継続的に扱われている題材とその指導内容の学年進捗との関連を明らかにした。多く扱われている題材は食事バランス、朝食、野菜であり、特に、食事バランスや朝食を題材にした指導では、家庭科や体育科と関連づけた教科横断的な指導が行われているとともに、生活場面等における課題解決につながられるような、実践的な指導が行われていることを確認した。また、給食指導の在り方として指導上の配慮と支援の工夫の必要性について考察した。

## 第5章：学童期に食に関する指導を受けた大学生の野菜摂取量と知識の定着度との関係

新潟大学の学生を対象とした野菜摂取に関する質問紙調査と、学生が小中学校で使用した教科書における野菜摂取に関する教育内容について調査を行った。その結果、調査時点での野菜の平均概算摂取量は全体の約70%が140g/日未満であり、摂取不足が懸念されること、

食生活及び野菜摂取に対する意識や知識、嗜好が、野菜摂取量に影響していることを明らかにした。また、小学校の家庭科、体育科と中学校の技術・家庭科、保健体育科の学習指導要領及び教科書において、食事のバランスや概量、食事の役割等に関する記載があり、食に関する指導が実施されているが、質問紙調査の結果からこれまでの教育課程における学習が大学生に定着していないことが分かり、アクティブ・ラーニングでの深い学びの必要性を論じている。

#### 第6章：小学校における食育カリキュラムの検討

総括として、第1～5章の結果に基づき、これまで主要な指導が行われてきた「食事バランス」及び「朝食」に関して、体育科、家庭科、学級活動の学習内容を関連付けた食育カリキュラムの試案を作成して提示した。そして、教科横断的なカリキュラムの試案として各学年で習得を目指す資質・能力が共有されることの意義を示し、今後の課題について述べている。

#### 審査結果の要旨

本論文は、学校教育を通して児童・生徒の健康で豊かな食生活の基礎を築き、生涯にわたる健康管理能力を育むことをめざして、2020年度に全面実施となる新学習指導要領の下で有用な、学習指導要領との対応を明確にした小学校における食育カリキュラムの試案を作成することを目的としている。まず、全国の公的機関からインターネット上に公開されている学習指導案・指導事例381件を収集した膨大なデータベースを作成して、学習指導案・指導事例が準拠する学習指導要領の内容項目や教材として位置づけることができる内容を網羅的に示したことは、新学習指導要領下で各教科等における食に関する指導を計画する際に有益な情報となり得る。体育科（保健領域）、家庭科（食生活分野）及び学級活動の学習指導案・指導事例の分析では、『食に関する指導の手引』（文部科学省）に示される食に関する指導の目標への該当状況を明らかにした点が新たな知見であり、食に関する指導の目標を明記した学習指導案を作成することが、学校全体での系統的な食育の指導計画やカリキュラム・マネジメントを検討する際に役立つとの見解を示したことは高く評価できる。また、学校教育課程に食育が位置づけられた環境で教育を受けてきた大学生に対する調査は、これまでの食に関する指導の課題を見出し、今後の教育の在り方を検討する上での確かなアプローチであったと言える。これらの調査・分析をもとに提示された食育カリキュラムの試案は、新学習指導要領及び『食に関する指導の手引』のどちらにも合致し、実際に多く取り組まれている題材・単元で構成されていることから、実践的かつ実効性の認められるカリキュラムとして評価できる。また、各学年で習得を目指す資質・能力が示されており、新学習指導要領下で教科等における指導を行う際に連続性を意識することで、学校教育活動全体で取り組む食に関する指導につながることを期待される。

海外における食に関する指導事例との比較や試案の実証等がさらに望まれるが、現場の教員が教科等における食に関する指導を計画する際に活用できる資料が不足している状況にあつて、新学習指導要領の全面実施を前にこのような試案が提示されたことは、今後の小学校における教科横断的な食育推進に向けた提案として意義がある。

なお、本論文は、小学校における食に関する指導について、学習指導要領と学習指導案・指導事例の分析を基に食育カリキュラムの試案を提示していることから、博士（教育学）が適当であるとされた。

以上のことから、本審査委員会では、本論文が博士（教育学）の学位を授与するに値するものと判断した。